

部 会 報 告

ISO/TC 127/SC 3/WG 13 ISO 6750 取扱説明書—内容及び様式 2016年2月スウェーデン・ストックホルム国際会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会 間宮 崇幸 (コマツ)

2016年2月に国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127 (土工機械) SC 3/WG 13 の国際作業グループ会議がスウェーデン国ストックホルム市で開催され、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から出席した間宮氏の報告を紹介する。

- 1 開催日：2016年2月3～4日
- 2 開催地：スウェーデン国ストックホルム市 スウェーデン規格協会
- 3 出席者：17名
スウェーデン (SIS) 5名, 米国 (ANSI) 5名, 英国 (BSI) 2名, ドイツ (DIN) 2名, フランス (AFNOR) 1名, イタリア (UNI) 1名, 日本 (JISC) 1名
- 4 会議概要：

初の対面会議で、各専門家がそれぞれの考える取扱説明書のあるべき姿に基づき、主張した。

引用規格について、EN 474-1, ISO 20474-1 の引用規格から ISO 6750 が引用されている規格を調査し、今後 TS (技術仕様書, ISO/TS6750-2 関連規格リスト) として独立させるか検討する。

5 審議内容：

他の取扱説明書に関する国際規格 (ISO 3600 や IEC 82079-1 等) を参考に、欧州機械指令との整合、用語及び定義、附属書 A 「取扱説明書の様式」 の見直しを図るための改正提案。第1回 WG (2015年10月) が Web 会議で、今回初めての対面会議を実施した。

前回 WG で参考とする規格を複数挙げたが、IEC 82079-1 について、目次のみインターネットで確認できるが、内容を確認して ISO 6750 を改良するため、WG 専門家に限定した閲覧方法につき、事務局へ検討依頼された。

Annex A で取扱説明書の様式を規定しているが、様式は各社で異なり、さらに紙を基本としているため、現在の電子媒体とそぐわないとの意見があった。

OEM の機械や付属品についての取扱説明書は、製造／販売／本体／付属品などでどの会社の責任かの議論があり、表紙にどう記載するかもあわせて検討することとなった。

引用規格の位置づけについて議論があり、ISO 6750 が引用している規格だけでなく ISO 6750 が引用されている規格の用語とも相互に関連するため、全ての規格を引用規格の条項に記載すべきとの意見が出た。次回 WG で検討するため、実際どの程度引用されている規格があるのか、下記7項の宿題が出された。ISO 6750 に全てを記載した場合、全ての改訂を反映できるかの問題があるため、ISO/TS 6750-2 関連規格リストとして ISO6750-1 一般要求事項から独立させ、より頻繁に改正する提案がされた。

同時に、用語の定義にどの文言を追加すべきかの議論があり、全ての用語を定義するのではなく ISO 6750 で新たに定義が必要な用語に限ることになった。追加すべき用語は、今後の改訂作業の中で決定する。

取扱説明書に含むべき内容として提案のあった項目のうち “Spare part list” は除外され、“Regional Regulation (例:EU の適合宣言書 DoC)” と “Translation (例:原文, 翻訳文)” が追加された。

4.2 項まで審議して終了した。

6 今後のスケジュール：

改正作業は通常の 36 ヶ月で実施、下記の日程で当初予定から変更無し。

- ・2017年4月 DIS 投票開始
- ・2018年4月 ISO 発行

次回 WG：2016年4月に対面会議をスウェーデン・ストックホルムで開催。

7 宿題事項：

事務局が作成する予定の EN 474-1, ISO 20474-1 の引用規格番号一覧表から、各専門家がそれぞれに割り当てられた規格について、ISO 6750 が引用されている箇所の項番号を～2016年4月迄に調査する。

8 参考資料：

- Doc N 7：今回の WG 会議議事案
- Doc N 8：第1回 WG の結果を踏まえた改訂案文 (WD1)

※今後追加されると思われるもの

- Doc N xx：今回 WG 会議の議事録
- Doc N xx：改訂案文 (WD2)

Doc N xx : EN 474-1, ISO 20474-1 引用規格一覧表
兼 参照規格調査および報告票

9 所感：

一言ずつ文言の詳細な検討を開始したが、取扱説明書の専門家が複数参加し、対面会議で細かい表現方法についても話し合えるため、議論が早く進んだ。今回まとめて開催された3件の国際WG会議（ISO 5010,

ISO 6750, ISO 10968）の中でISO 6750の参加者が最も多く、取扱説明書への欧米の関心の高さが窺えた。ISO 6750のみ参加している取扱説明書担当者も数名おり、取扱説明書作成に当たり情報交換や人脈形成の為にも、日本国内から取扱説明書専門家の参加は有意義と思われる。

JCMA

